山梨医大紀要　第17巻，38～41（2000）

基礎看護実習前の看護学生の自我状態についての考察
― 大学生と短期大学生のエゴグラム調査の比較から ―

白鳥さつき

基礎看護実習を控えた本学看護学科2年次生に，自我状態を知る目的でエゴグラムによる調査を行った。各項目（CP；Critical Parent，NP；Nurturing Parent，A；Adult，FC；Free Child，AC；Adapted Child ）の平均値を同時期のK短期大学看護学生のエゴグラムと比較し学生の心的傾向を考察した。両大学生とも看護婦に必要とされる，思いやりを示すNPが一番高く，健康なタイプであった。比較では大学生の方がAが高く，科学的思考や総合判断ができる傾向にあった。短大生はFCが高く，感情や自由な自己表現が豊かであると判断された。また，両者ともACが高いという結果から，他者に迎合しやすい，積極的な対人関係を築けないという現代の若者の特徴が伺えた。各項目について値が過少である場合についても考察し，基礎実習における教員の役割についての示唆を得た。

キーワード：看護学生，基礎看護実習，自我状態，エゴグラム

はじめに

基礎看護実習は，看護の対象となる患者を総合的にとらえ，日常生活援助を中心に問題解決のプロセスを学ぶ最初の機会である。看護学生（以下学生とする）は初めての臨床実習で患者を受け持ち，目的を持ったコミュニケーションを図り，対人関係を築き上げていくというスキルを要求される。未熟な学生であっても患者に受け入れられ，必要な情報を得るためにはこの，患者一学生間の対人関係を築くことが，大変重要になる。

この時期の学生は青年期にあり，エリクソンの心理・社会的発達課題によると自己探求，自我形成，自我同一性を確立する時期である。小笠原[1]は，青年期延長説が唱えられる今日，学生が十分な自己探求を行い，危機を経て自我同一性を確立するという心的作業は困難を極めると述べている。さらに看護を目指す学生においては，対人関係技能を発揮するために自己探求，自我形成への主体的努力が必要であるとしている。

臨床実習における対人関係は，学生にとって大変な心的緊張を伴い，ストレスフルなものである。肯定的自我形成のためには，学生を取り巻く環境や人間関係が良好に保たれるよう援助する必要がある。また，この時期の自我状態が，その後の看護職者としての自我に影響を及ぼすであろうことを考えると，実習指導における教員の役割は大きいといえる。

今回，Y医科大学看護学生２年次生に基礎看護実習前の自我状態を知る目的でエゴグラムによる調査を行った。基礎看護実習を控えた学生の心的傾向を捉え，その結果を大学生と短大生で比較し，同時期における看護学生の心理的傾向について考察したのでここに報告する。

山梨医科大学　人間科学・基礎看護学講座

Ⅰ　研究方法

１　調査対象；K短期大学看護学科2年次生　84名
（女性　81名，男性3名，平均年齢19.98－1.02歳）
Y医科大学医学部看護学科2年次生　59名
（女性57　名，男性2名，平均年齢19.5－0.79歳）

２　調査期間　平成11年7月　K短期大学看護学生（２年次生）調査
平成12年7月　Y医科大学看護学生（２年次生）調査

質問紙は教員が配布し，回収した。K短期大学では有効回答率82名で97.6％であった。Y医科大学では59名，100％であった。調査にあたり，看護学生の一般的自我状態の特徴を話し，自我状態形成と実習の関連について説明した。その上で実習前の自我状態の傾向を知ることは実習指導方法の参考になること，縦断的調査により変化が把握でき，実習内容や指導体制を考える資料になること，また学生が自分の変化を客観的に見られること，データは統計処理され個人データは出さないことを説明し，協力を得た。

３　調査内容

東大式エゴグラム（TEG）を使用した。

４　データ分析

統計ソフトSPSS（Ver10.0）を使用し，各項目（CP, NP, A, FC, AC）の合計得点の平均値を出し比較した。

注）ことばの解釈

E.Berneは，人の心の動きを，親的な自我状態 Parent（CP；Critical Parent，NP；Nurturing Parent），大人の自我状態 Adult（A），子ども的な自我状態 Child（FC;Free Child，AC；Adapted Child），の５つで構成されると説明している。エゴグラムはこの５つの自我状態を目に見える形にシンボル化したものである。

１）エゴグラム；Jhon. M. Dusayによって開発された。自我状態を５つの基本構成要素（CP, NP, A, FC, AC）に

分け，人の心の動き（自我状態）が放出していると思われるエネルギーを目に見えるシンボルを用いて表している。この自我状態が放出していると思われるエネルギーを数量化したものを心的エネルギーとしている。エゴグラムは通常折れ線グラフで表し，一番高いところに注目し，どの自我状態が優位かを判別する。

一般に，NPを頂点としたなだらかな山型が自他肯定を示す健康なタイプとされている。

２）自我状態の判断

以下に５つの優位タイプについてその性質を記す。

① CP優位タイプ；責任感が強く部下や弱者の面倒を見る。権威的，支配的な面が強く，基本的には他者否定の構えを持つ。

② NP優位タイプ；他者を受容し，思いやりを持って交流する。面倒見や適応が良く，基本的には他者肯定の構え。

③ A優位タイプ；情緒より知性が勝り，合理性・生産性・能率性が優先する。物事を多角的に観察し，平等・公平な評価をする。

④ FC優位タイプ；感情や欲求を自由に表現できるので行動が優先する。自己肯定的で自信を持っている。自己愛も強く責任感が弱い。

⑤ AC優位タイプ；他者の庇護の下で落ち着く依存タイプ。対人関係で非主導的で“自分がない”タイプ。自己否定的構えを持つ。

II　結果

Y医科大学看護学科の学生（以下大学生とする）とK短期大学看護学科の学生（以下短大生とする）の各自我状態の平均値は表１のとおりである。K短期大学看護学科の学生については，基礎実習前から全実習終了後までの縦断的調査を行ったのでその結果も参考に記した。短大生の縦断的調査で基礎実習前後では，t 検定による各平均値の比較に，有意な差は見られなかった。全実習終了後のNPとAでは $p < .10$ で顕著な差は見られなかった。

表１　基礎看護実習前の各項目の平均値

	Y医科大学生	K短期大学生
CP Critical parent	6.83±3.43	6.12±3.79 (6.44±3.95)
NP Nurturing parent	13.40±3.53	14.63±3.09 (14.70±3.29)
A Adult	11.17±3.75	10.44±2.96 (10.23±3.29)
FC Free Child	10.96±3.60	12.21±3.51 (12.18±3.48)
AC Adapted Child	11.37±5.31	11.45±4.60 (10.86±4.82)

（　）内の数値はK短期大学生の実習終了後の平均値

表に示したとおり，大学生，短大生ともNPを最高点としたNP優位型である。特徴的なのはFC, ACも同様に高い値を示していることである。　図１に各平均値の比較をグラフに表した。大学生はNPを頂点とした緩やかな“への字型”であるのに対し，短大生はNP・FCが大学生より高く，Aが低い“M字型”を描いている。

エゴグラムでは５項目の数値について，過多の学生より過少の学生について注目すべきであるという見解がある[2)]。図２に大学生の，５つのシンボルの平均値のトータルが最低であった学生と，NP，Aが一番低かった学生の数値をグラフにした。図３は同様の短大生の２例をグラフに表したものである。

各項目で，個人の平均値が全体の平均値の1/2以下であった学生はCP；大学生６名（10%）短大生25名（30%）。NP；大学生１名（１%）短大生１名（１%）。A；大学生４名（６%）短大生５名（６%）。FC；大学生２名（３%）短大生４名（５%）。AC；大学生13名（22%）短大生10名（12%）であった。

III　考察

先行研究では実習によって心的エネルギーが上昇し，看護婦に期待されるNPやAが高くなるという結果が報告

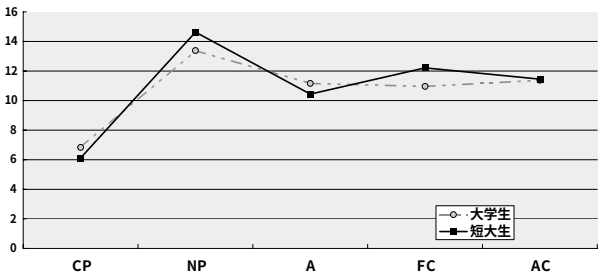

図１　大学生と短大生の各項目の平均値の比較

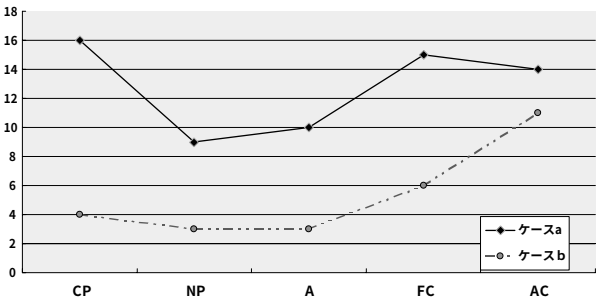

図２　平均値が最も低かった大学生a・bの例

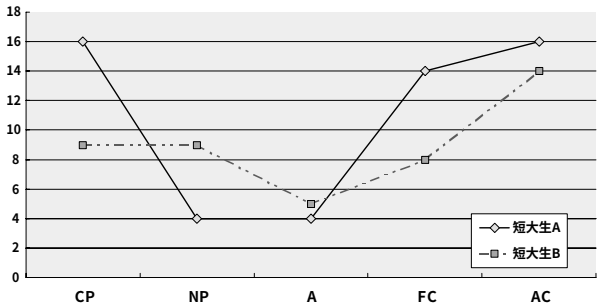

図３　平均値が最も低かった短大生A・Bの例

されている[3)4)]。John M,Dusay[5)]は「看護婦には高いNPが要求される」と述べており，飯田は[6)]専門職業人として理想の看護婦のエゴグラムを「NPがAよりやや高いか，あるいは同じ値で頂点を示し，職業人としての価値観，信念を表すCP，さらにありのままの私を示すFCが高い“への字型”」としている。大学生と短大生を比較すると，思いやりを示すNPが両者とも頂点となっている。これは，両者とも看護婦を目指す学生としての資質を備えていると考えて良いだろう。科学的に物事を捉えられることを示すAについては大学生が短大生より高く，感情を自由に表現できることを示すFCについては短大生のほうが高かった。つまり，分析的，科学的視点は大学生のほうが高く，自由な自己表現は短大生のほうが豊かであるということになる。これは学生のこれまでの教育課程や現在の看護に対する自覚などが微妙に影響していると考えられる。ACについては両者ともAより高い値で，まだまだ自我が完成されていない，容易に他人に影響を受けやすい，自ら積極的に対人関係を築くことができない学生象が浮き彫りにされた。

鳴沢[7)]は最近の青年の特徴として，社会的な経験や成熟の機会が乏しく，心の発達がいつまでも未熟であり，特に対人関係の経験が不足していることを上げている。学生が成長するためには，実習で積極的に対人関係を築き，他者評価による自己像を受け入れながら，自我を形成していくことが大切である。学生が初めて患者との関わりを持つ基礎実習においては，教員が十分な情報収集のもとに，実習環境を整える必要があろう。特に，指導者を始め患者や医療スタッフとの関係においては，スムーズな人間関係を保てるよう影からサポートすることが望まれる。

次に，各項目の平均値が最低で，エゴグラムの描く折れ線グラフのパターンが，学生全体の平均値の描く折れ線グラフのパターンと極端に違う学生の例（図２，３）や各項目の数値が低い学生について考察する。

各項目の値が平均値より極端に低い場合は，心的エネルギーの欠乏状態を表す。この場合，無感動であったり，自分を低く見てあまり他人と関わらない傾向がある。図２，図３の場合，大学生a・b，短大生A・BともNPとAがFCやACより低い値である。低いNPは他者を受け入れられず，他者の感情を傷つけても平気ということもありうる。さらに，低いAは現実の認識が弱かったり，歪んでいるということになる。平田の看護婦の職場適応に関する調査では，NP・Aが低くFCが高い看護婦においては，私生活を仕事に持ち込む傾向があることを示唆している[8)]。また，武藤はAがFCやACより低い学生において，不安傾向が強く，外的刺激による影響を受けやすくストレスを生じる可能性が高い[9)]と述べている。CPが低い学生においては医療事故を起こしやすいという傾向が報告されている[10)]。Aが全体の平均値の1/2以下の学生は大学生，短大生とも６％と少なく，教員が個別に関わっていける範囲内と考えられる。CPでは同様の学生は大学生では14％でAC に次いで2番目，短大生では30％と一番多かった。これは最近の若者の，責任を取りたくない，あいまいさを好むといった傾向と一致する。この結果から，医療事故に対する職業人としての責任や自覚を，学生のときから育む教育の必要性が示唆された。

看護を目指すものにとって，実習は身体的にも心理的にも緊張を強いられるが，最も成長を期待できる実践学習といえる。基礎実習においてはまず，学生が対人関係において苦手意識を植え付けないようにすることが大切である。そのためには学生が患者との関わりの中で，無意味に緊張したり自尊感情を損なわないようなサポートのあり方が望まれる。実習における達成感を通してさらなる自己啓発への動機付けができれば，責任感，思慮深さ，思いやりなどの感性が育つものと考える。

Ⅳ　まとめ

１　基礎実習前のY医科大学看護学生の自我状態を把握する目的でエゴグラムによる自我状態を調査し，その結果を短期大学看護学生と比較した。

　大学生はNPを頂点とした“への字型”で，短大生はNPの次にFCを頂点とした“M字型”のTEGパターンであった。

２　両者ともNPが一番高いという結果から，看護婦に必要とされる共感的理解や思いやるという資質があると考えられた。

３　各項目の平均値の比較では，大学生はAが高く科学的思考や総合的判断に優れていると判断できた。短大生ではFCが高く，感情や自由な自己表現が豊かであると考えられた。

４　両者ともACがAを上回っており，他者に迎合し，自ら対人関係を築くことが苦手な学生象が浮き彫りにされた。

５　エゴグラムでは5項目の値が過多の学生より過少の学生について注目すべきという見解から，特にNP,AがFCやACより低く，全体の平均値の1/2以下の学生とCPが同様に低い学生に注目した。NP，Aが低い学生は対人関係において緊張しやすくストレスを感じやすいタイプであるが，大学生・短大生とも１～６％内であった。これは教員が注意して関われる範囲内で問題ないと考えられた。CPに関しては医療事故を起こしやすいという結果が報告されている。大学生10％，短大生30％という結果から，責任感や職業的自覚を学生のうちから育てる教育の必要性が示唆された。

６　現代の学生に，対人関係において緊張しやすく，責任を取りたくない，庇護されていたいという傾向が多くみられることから，教員は実習における人的環境の調整や実習状況の細かな把握が必要であると考えられた。

おわりに

医療の高度化や高齢社会への急激な変化に伴って看護の多様性や質的向上が期待されている。看護教育の場に求められる責任も益々増大しているといえよう。

教育効果を高めるためには，学生の行動や心理，考え方などの実態を十分理解した上で，きめ細かに関わるこ

とが大切であると考える。しかし，われわれ教員とは生活体験を異にする現代青年を，十分に理解することは簡単なことではない。今回，エゴグラム調査によって学生の自我状態のおおまかな傾向をつかむことができた。しかし，十分な資料とはいえない。学生にとって人間関係を通して他者から自分の姿を気づかされ，認識することは自我を確立する大切な過程となるのである。これらの過程で，学生が人間的に成長できるような関わり方や評価方法について，今後も調査・検討を続けたいと考えている。

引用文献

1）小笠原昭彦，鈴村初子；看護短期大学学生の自我同一性地位と看護職イメージ，名古屋私立大学看護短期大学部紀要，(10)，81－89，1998.

2）川端寿美子，館瓊子他；看護学生のエゴグラムに見る指導のポイント〈第１報〉，看護展望，（13）７，70－74，1988.

3）武藤真佐子，看護短期大学学生の3年間のエゴグラムの変化，北海道大学医療技術短期大学紀要，75－85，1998.

4）伊藤小百合他，看護学生のコミュニケーション技能育成に関する検討　－自己評価とエゴグラムの分析－，日本看護科学学会学術集会講演集，(19)，358－359,1999.

5）John M,Dusay.，新里里春訳；エゴグラム，1989

6）飯田真佐子，金井ヒロ他，；エゴグラムから見た看護婦の成熟性について，看護展望，（11）９，34－41，1986.

7）鳴沢實；若者達と対人関係ストレス，日本看護学教育学会誌，（19）４，42－45，2000.

8）平田信子，梯靖恵他；TEGパターンからみた卒業生の職場適応感，看護展望，24（13），77－85，1999.

9）前掲３

10）前掲２

Abstract

＿ A consideration about the Ego-State of the nursing student before Basic Nursing Practice, －From a comparison of EGOGRAM data between University students and Junior college students－

Satsuki SHIRATORI

A study by EGOGRAM was done with the purpose of knowing investigating the ego-state of second-year students of our university about to take part in foundation nursing practice.

The mean levels of each item (CP: Critical Parent, NP: Nurturing Parent, A: Adult,FC: Free Child, AC: Adapted Child) were compared with egograms of nursing students of K Junior College, which were taken during the same period, and mental tendencies of the students were discussed. Both students showed the highest NP indicating sympathy which nurses need, and the result indicates that they are healthy type. The comparison revealed that the university students had higher A and tended to be able to conduct scientific thinking and integrated judgment.

The college students had a higher FC and were evaluated to express their emotion and self freely. The results that both students had higher ACs indicate that they ingratiate themselves with other persons easily and they cannot build active human relation, which are characteristics of modern young persons. Cases that the level in each item was too small was discussed, and a suggestion of teachers' roles at basic training was obtained.